

## 「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産登録問題についての声明

### 強制動員真相究明ネットワーク 朝鮮人強制労働被害者補償立法をめざす日韓共同行動

日本政府が推薦している「明治日本の産業革命遺産」23 資産の世界遺産への登録について、6 月 28 日からユネスコ世界遺産委員会での審議が行われる予定である。報道で伝えられているように韓国、中国政府からは、そのなかに戦時期に日本政府が植民地・占領地から連行した人びとの強制連行・強制労働の現場を含むことから、登録反対、あるいは、その事実を明示すべきことの意見表明がなされている。

朝鮮人強制連行・強制労働の真相究明に取り組んできた立場から、以下の見解を明らかにする。

1、日本政府は過去に誠実に向き合い、戦時期の強制連行・強制労働についての認識を明確にすべきである。

日本政府が登録を目指している資産のなかには、侵略戦争のための軍需生産維持のために朝鮮人・中国人・連合軍俘虜が労働した施設が含まれている。そこでの朝鮮人・中国人・連合軍俘虜の労働は、日本政府の決定に基づいて進められたものであり、その実態は強制動員・強制労働としか呼びようのないものである。

韓国や中国からの指摘に正面から答えようとしない態度は、日本のなかでの歴史修正主義の蔓延という国際社会の疑念を呼び起こしかねない。これまで、日本帝国の加害の歴史を否定、ないし軽視する認識は、日本社会の各種メディアで流布されているだけでなく、安倍内閣の閣僚、安倍首相と親しいとされる文化人、安倍首相自身も行ってきた。

このことを考えるならば、日本政府はこれを機会に戦時期の強制連行・強制労働についての認識を明確にすべきである。また、この問題の解決に向けての契機とすべきである。

なお、事実認定をめぐっては、韓国政府の発表や韓国のマスコミ報道で伝えられている、世界遺産申請施設で労働していた朝鮮人の人数、そのうちの死亡者数は、事実誤認に基づく点がある。無用な混乱を避けるためにも、史料にあたり正確な理解をもとに、議論し情報を発信するべきである。

2、日本政府は、時期区分、登録対象を見直し、強制連行・強制労働の歴史をふまえて申請すべきである。

日本政府や登録を推進している関係団体は、今回の世界遺産登録は 1910 年までの急速な産業化をめぐるものであり、戦時期の朝鮮人・中国人などの強制連行・強制労働は無関係としているが、この説明は通用しない。1910 年という区切り自体がなぜ設定されたのか疑問である。それ以降にそこで起きた歴史事象を「なかったこと」にはできない。

端島炭坑（軍艦島）の建物の多くが 1910 年代以降の建物であり、明治期のものはほとんどない。端島炭坑を登録対象とするならば、1910 年は共通した区切りの根拠にはなりえない。

松下村塾は吉田松陰の私塾であり、吉田は対外膨張の構想を説いていた。門下生には軍拡や植民地獲得の政策を主導する政治家や軍人となった人物がいる。それが世界遺産にふさわしいかどうか疑問である。

この産業遺産登録に向けて、明治期の産業革命の遺産を観光資源として利用し、利益を上げることがねらわれている。三池以外の福岡の炭鉱の産業遺産は排除され、鹿児島と山口を中心に遺産群をつくり、長崎や釜石、韭山を加えて明治産業革命遺産の物語をつくりあげた。産業革命にともなう民衆の苦難や強制労働など加害の歴史への視点はない。歴史を重視するのではなく、観光利益のために、官邸主導で登録をすすめてきたのである。

申請については、時期区分、登録対象を見直し、強制連行・強制労働などの歴史も入れるべきである。

### 3. 世界遺産の登録ではユネスコの理念である平和や人権をふまえるべきである。

各種遺産の保存と活用は、国家主義的な歴史観の宣伝や観光利益の目的をもって行うべきものであってはならず、とりわけ、平和と人権尊重を理念として尊重しているユネスコが管轄し、人類の普遍的価値についての評価をもとにしている世界遺産の登録にあたっては、平和や人権を脅かしてきた思想や歴史との関係を考慮する必要がある。

今回の日本政府が登録を目指している資産中に含まれる炭鉱等の労働現場では、朝鮮人・中国人・連合軍俘虜の強制労働に加えて、受刑者や国内の被差別民衆などが奴隷のように使役された歴史を持つ。

これらの事実に触れずに、産業化の成功物語として世界遺産に登録しようとすることは、世界遺産条約やユネスコの理念にそぐわない。ユネスコは、国家主義的な歴史観の宣伝や観光利益のためではなく、人権と平和の理念を踏まえて歴史遺産の登録をおこなうべきである。

今回の明治産業革命遺産の登録申請問題には、以上のような問題点がある。「1910年以前の日本の産業化」のみが評価され、被害国の指摘に耳を閉ざしたままで登録がなされてはならない。ユネスコの世界遺産登録においては、このような問題点を克服すべきである。

以下に参考資料として、明治産業革命遺産に関する現場での、朝鮮人・中国人・連合軍俘虜の強制労働の実態に関する表をあげる。このような強制連行・強制労働の歴史をふまえて遺産として登録することが普遍性を示すものになるだろう。

2015年6月11日

#### <連絡先>

〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (公財)神戸学生青年センター内

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 (飛田)

事務局長 中田光信 (携帯 090-8482-9725 e-mail mitsunobu100@gmail.com)

資料1 登録申請産業遺産と強制労働

強制労働企業名 (産業遺産申請箇所)	朝鮮人		連行者数・死者数	中国人	連合軍俘虜
	連行状況・名簿	連行者数・死者数			
三菱重工業長崎造船所 (第3船渠・ジャイアントカンチレバークレーン・旧末型場)	1944年3474人、45年2501人、計5975人の連行統計(2) 長崎造船場田寮などの被爆朝鮮人名簿(12) 関連工場の三菱長崎兵器、三菱長崎製鋼、三菱長崎電機、地下工場建設へも連行 三菱長崎製鋼143人の名簿(2) 川南工業深掘造船所496人の名簿(川南工業香焼島造船所は戦後、三菱長崎造船所が吸収)(2)	三菱長崎造船所への連行者数は約6000人、関連工場への連行も含めればさらに増加。 長崎造船所での死亡判明数は63人、長崎兵器4人(13)、他にも原爆死多数	1943年4月福岡俘虜収容所第14分所開設、長崎造船で労働、43年4月300人、44年6月212人の約500人の連行、他への転出あり、敗戦時収容195人(蘭152、英24、英19)、収容中死亡113人(うち原爆死8人)(8) 川南工業香焼造船所でも労働、1942年10月1000人、42年12月300人、44年9月200人ほか、1500人以上連行、転出あり、敗戦時収容497人(蘭324、英160、米5ほか8)、収容中死亡72人(8)		
三菱鉱業高島炭鉱高島坑・端島坑 (高島炭坑・端島炭坑)	1942年6月までに1110人連行(1) 43年に600人連行(3・4) 44年に1100人以上連行(4) 戦後の解雇者1299人の名簿(2) 朝鮮女性の連行も(性的奴隷)	高島炭鉱(高島・端島)への連行者数は約4000人(推定) 死亡判明数は端島48人、高島2人(6・13)、高島でも50人ほどの死亡と推定	1944年6月端島に204人、7月に高島に205人連行、死亡は高島15人、端島15人(7)		
三井鉱山三池炭鉱 (三池炭鉱・三池港)	1940年93人、41年96人、42年1834人、43年2889人、44年2466人、45年1886人の計9264人の連行表(2) 三池万田坑1650人の名簿(2) 三池炭鉱約3000人の名簿(精) 関連の電気化学工業、三井染料などに連行、電気化学工業大牟田工場には1944年1月までに572人連行(9)、三池染料への連行者も130人以上(11)	三井三池炭鉱への連行者数は9300人、 関連工場への連行を入れれば、1万人を超える連行 三池炭鉱での死亡判明数は50人、電気化学4人、三井染料8人(13)	万田坑に1944年5月412人、45年2月595人、3月593人、3月307人の計1907人連行(うち四山坑へと2~3月に694人転送)、宮浦坑に44年5月231人、10月343人の計574人連行、死亡は万田294人、四山158人、宮浦41人(7)、 追悼碑文では計635人の死亡	1943年8月福岡俘虜収容所第17分所開設、三池炭鉱で労働、敗戦時収容1737人(米730、豪420、英250ほか5)、収容中死亡138人(うち1人は倉倉内餓死、1人は逃亡・刺殺)(8) 三池関連では44年9月第25分所開設、電気化学工業大牟田で労働、敗戦時収容390人(英388、米2)、収容中死亡4人(8)	
日本製鉄八幡製鉄所 (宮八幡製鉄所)	1942年6月までに、八幡製鉄所に394人、八幡製鉄所運搬請負業共済組合に2785人の連行(1) 1944年1月までに1471人連行、逃亡760人(9) 供託資料に3042人の名簿(5)	八幡製鉄所に3000人以上、八幡製鉄所運搬請負業共済組合に3000人以上、計6000人以上の連行 八幡製鉄所の死亡で氏名判明者は3人(13)	1944年9月に日鉄八幡港運に201人連行、死亡20人(7)	1942年9月八幡に俘虜収容所(43年福岡捕虜収容所第3分所)、敗戦時収容1195人(米616、蘭193、インド132、中国22ほか21)、収容中死亡158人(8)	

日鉄鉱業金鉱山 日本製鉄釜石製鉄所 (橋野鉄鉱山・高畑 跡)	1942年6月までに釜石鉱山に470人、釜石製鉄所 に498人連行 (1) 供託資料に釜石製鉄所690人の名簿 (5)	釜石鉱山と釜石製鉄所で計1500 人 (推定) 死亡数は釜石鉱山関連で18人、 釜石製鉄所関連で39人、釜石関 連で13人が判明 (5・13)	釜石鉱山に1944年11月に197人 連行、45年2月に91人の計288人 連行、死亡123人 (7)	1943年11月函館俘虜収容所第3分所 (のち東京俘虜収 容所第7分所から仙台俘虜収容所第5分所)、釜石製 鉄所で労働、敗戦時収容351人 (歴168、英86、ほか 19)、死亡50人 (うち米軍艦砲撃死34) (8)
---	---	---	---	--

典拠

- (1) 中央協和会「移入朝鮮人労働者状況調査」1942年
- (2) 厚生省労働局「朝鮮人労働者に関する調査」(長崎県分、福岡県分) 1946年
- (3) 石炭統制会労働部京城事務所「半島人労働者供出状況調査」1944年
- (4) 石炭統制会「労働状況速報」「雇入解雇及就業率調査」「主要炭鉱給源別現在員表」「給源別労働者月末現在数調査」ほか
- (5) 日本製鉄総務部労働課「朝鮮人労働者関係」1946年
- (6) 高浜村「火葬認許証下附申請」
- (7) 外務省「華人労働者就労事情調査報告書」1946年、表での連行月は受入月。
- (8) POW研究会「研究報告」 <http://www.powresearch.jp/jp/archive/index.html>
- (9) 福岡県「労働員計画二〇〇〇」移入労働者事業場別調査表」1944年
- (10) GHQ・LS (法務局) 文書「三井鉱山大牟田労働者名簿」(List of Employees at Mitui Mining Company at Omuta)
- (11) 三井染料・朝鮮人名簿
- (12) 長崎市「長崎朝鮮人被爆者一覽表」
- (13) 「戦時朝鮮人強制労働調査資料集 増補改訂版」

註 韓国は豫省は高島炭鉱での強制動員数を4万人としているが、4千人の誤りである(2015年5月末現在)。

外交部

依り

資料2 三井三池炭鉱・強制労働死亡者（朝鮮人分）

	氏名	住所	連行年月日	死亡年月日	死因
1	新井 聖秀	慶南 密陽 三浪津 牛谷		1941. 5	労災
2	金本 允守	慶北 義城 丹村 觀徳		1942. 6	労災
3	長岡 碩伊	慶北 安東 安東 玉洞		1942. 9	労災
4	清原 観栄	慶北 義城 丹北 自秋		1942. 10.	労災
5	金田 鐘淳	忠北 忠州 蘇台 徳隠	1942. 9. 9	1942. 12. 19	落盤
6	崔 文出	慶北 清道 清道 元井	1943. 8. 25	1943. 2. 5	労災
7	山本 正國	京畿 京城 東大門 龍頭	1943. 4. 17	1943. 5. 24	病死
8	永川 根変	黄海 黄州 都峙 金松	1943. 4. 17	1943. 6. 5	落盤
9	尹 錫吉	黄海 瑞興 龍坪 鳳下	1943. 4. 17	1943. 7. 8	病死
10	山本 文業	江原 襄陽 竹旺 欠岩津	1943. 6. 30	1943. 7. 9	事故
11	西村 正燾	忠南 保寧 川北 河満	1942. 11. 22	1943. 8. 21	炭壁崩壊
12	金 連守	慶南 南海 昌善 五用	1943. 4. 17	1943. 8. 26	落盤
13	国川 吉童	京畿 利川 大月 長坪	1943. 4. 21	1943. 9. 21	落盤腸露出
14	金元 福万	忠南 保寧 青所 聖淵	1942. 11. 22	1944. 2. 27	骨折
15	山本 培玉	忠南 牙山 塩峙 江清	1942. 2. 4	1944. 4. 19	炭壁崩壊
16	呉山 且碩	慶南 宜寧 大義 泉谷	1944. 1. 25	1944. 7. 15	落盤
17	柳 寿栄	京畿 水原 正南 普道		1944. 7. 30	
18	李自 斤同	京畿 広州 五浦 新峴	1944. 4. 7	1944. 9. 11	骨盤骨折
19	安富 永集	京畿 長湍 小南 斗谷		1944. 9. 16	
20	山下 大儀	京畿 龍仁 器興 農書		1944. 9. 16	
21	延田 英鐘	京畿 水原 正南 内	1943. 9. 21	1944. 10. 27	労災
22	平本 仁得	京畿 坡州 条里 獐谷		1944. 11. 22	
23	上村吉太郎	咸南 徳原 府内 永登	1943. 8. 13	1944. 11. 9	事故
24	鄭本 寅守	全北 高敞 富安 仙雲	1944. 8. 30	1944. 12. 15	落盤
25	大原 載熙	全南 長城 ○○ 安鷄	1944. 6. 9	1944. 12. 22	病死
26	張 基赫	京畿 加平 加平 安	1942. 12. 22	1945. 1. 13	骨盤骨折
27	平田 寿根	京畿 水原 郷南 官	1943. 9. 21	1945. 1. 23	病死
28	小林 炫善	慶南 南海 南海 平峴	1944. 8. 30	1945. 2. 6	骨盤骨折
29	松川 鐘学	京畿 水原 奥山 園		1945. 2. 22	
30	三井 錫潤	京畿 水原 郷南 提岩	1943. 9. 21	1945. 4. 1	病死
31	山佳 泰国	京畿 華城 東灘 盤松	1943. 9. 3	1945. 4. 1	落盤
32	岩村 林	京畿 長湍 大江 郡勤		1945. 4. 16	
33	李 龍鳳	黄海 戴寧 南栗 方城	1943. 4. 17	1945. 4. 27	落盤
34	和山 忠善	京畿 水原 麻道 青園	1943. 9. 3	1945. 5. 2	落盤
35	金 卯出	京畿 楊平 砥堤 水谷	1942. 12. 22	1945. 5. 22	脊椎骨折
36	新井 命錫	京畿 長湍 小南 有徳		1945. 5. 30	
37	金井 河源	京畿 長湍 小南 自作		1945. 6. 7	
38	木本 鳳緒	忠南 大徳 柳川 内河	1944. 7. 9	1945. 6. 21	労災
39	河田 喆裕	京畿 水原 南陽 松林	1943. 9. 21	1945. 7. 14	落盤
40	李 寅奉	京畿 水原 郷南 発安	1943. 9. 21	1945. 7. 14	落盤
41	金 日東	忠南 扶余 石城 正覺		1945. 7. 26	
42	宮本 板俊	忠南 牙山 仙掌 宮坪	1942. 2. 4	1945. 8. 2	戦災死
43	朴 鐘洛	京畿 水原 郷南 上新	1943. 9. 21	1945. 8. 6	労災
44	高島 光業	全北 長水 天川 五峰	1944. 8. 30	1945. 8. 7	戦災爆死
45	簡 錫麟	江原 横城 書院 分	1943. 4. 21	1945. 8. 7	戦災死
46	金海 貴福	忠南 牙山 陰峰 月朗	1942. 2. 4	1945. 8. 7	戦災死
47	柳井 漢圭	全北 高敞 新林 外代	1944. 8. 30	1945. 8. 7	爆死
48	朴 聖俊	忠南 洪城 広川 新津	1944. 6. 9	1945. 8. 17	病死
49	巴山 有福	全南 高興 東江 梅谷	1945. 4. 19	1945. 9. 21	病死
50	山本 喜錫	京畿 水原 南陽 長徳	1943. 9. 21	1945. 10. 4	労災

『戦時朝鮮人強制労働調査資料集 増補改訂版』から作成、判明分である。

資料3 高島炭鉱強制労働死亡者(朝鮮人分)

	氏名	住所	坑別	死亡年月日	年齢	死因
1	金 在顯	慶南 金海 二北 龍徳	高島	1941. 8	25	労災
2	曹 龍業	慶南 密陽 山外 茶竹	高島	1941. 3.	19	労災
3	朴 義相	慶南 山清 生草 新湫	端島	1939. 11. 14	32	胸打撲
4	金 又龍	慶南 固城 大可 抑興	端島	1939. 12. 4	32	頭打撲
5	崔 武烈	慶南 固城 馬岩 宝田	端島	1939. 8. 24	27	溺死
6	金 英大	慶南 固城 大可 琴山	端島	1940. 12. 27	23	破傷風
7	李 甲出	慶北 高靈 雙林 貴院	端島	1940. 3. 7	31	病
8	崔 守龍	慶南 晋州 晋城 耳川	端島	1940. 5. 1	43	脳脊髄損傷
9	郭 鳳伊	慶北 達城 玄風 上洞	端島	1940. 6. 24	45	病
10	李 任速	慶南 咸安 郡北 慕老	端島	1940. 7. 4	36	外傷右肺
11	陳 大名	慶南 金海 二北 龍徳	端島	1941. 11. 8	31	埋没窒息
12	李 在讚	慶南 釜山 湓州	端島	1941. 7. 6	52	病
13	卜山 泰寿	慶南 金海 進永 竹谷	端島	1941. 8. 25	36	外傷 胸
14	武木 在守	慶南 金海 駕洛 濟島	端島	1942. 12. 6	46	病
15	表 相萬	慶南 固城 大可 松湫	端島	1942. 2. 18	32	埋没窒息
16	裴 点道	慶南 固城 巨流 佳麗	端島	1942. 3. 13	23	頭蓋骨折
17	陳 道俊	慶南 統營 長承浦 長承浦	端島	1943. 12. 19	54	病
18	崔 洛相	慶南 晋陽 金谷 竹谷	端島	1943. 12. 28	24	埋没窒息
19	李 利實		端島	1943. 2. 3	47	病
20	高山 文澤	全南 濟州 濟州 寧坪	端島	1943. 5. 1	26	埋没窒息
21	国本 相哲	京畿 江華 下道 如此	端島	1943. 5. 18	33	病
22	李 又福	慶南 固城 介川 北坪	端島	1943. 6. 24	31	埋没圧死
23	白川 淳基	慶南 固城 永景 永芙	端島	1943. 6. 24	53	埋没圧死
24	李 明五		端島	1943. 7. 13	31	埋没窒息
25	張 明煥	忠北 忠州 利柳 完王	端島	1943. 7. 24	23	病
26	高原 大成	忠北 清州 賢都 竹田	端島	1943. 7. 7	26	埋没窒息
27	李 海成	忠北 堤川 寒水 鳴梧	端島	1944. 1. 15	26	埋没圧死
28	吳本 秀萬	黄海 碧城 西席 松潤	端島	1944. 1. 15	44	埋没窒息
29	金光 萬吉	全南 咸平 海保 山内	端島	1944. 1. 24		病
30	高島 陽元	黄海 信川 草里 蓬萊	端島	1944. 3. 5	28	外傷 脳
31	李 完玉	全北 金堤 白山 石橋	端島	1944. 6. 6	22	溺死
32	岩本 判石	慶北 達城 花園 本里	端島	1944. 8. 1	27	埋没窒息
33	平岡 相哲	全南 咸平 海保 上谷	端島	1944. 8. 4	37	病
34	金本 興守	慶南 金海 生林 鳳林	端島	1944. 9. 4	38	埋没窒息
35	山内 奉禧	黄海 信川 山川 沙邑	端島	1944. 11. 2		病
36	大江 順基	慶南 金海 長有 官洞	端島	1944. 11. 22	24	病
37	徳山 性一	全南 務安 海際 新井	端島	1944. 11. 5	46	埋没窒息
38	鄭 文根	慶南 晋陽 鳴石 龍山	端島	1944. 12. 3	31	病
39	谷川 仁 <small>イ</small> 天	慶南 晋陽 水谷 昌朴	端島	1945. 1. 1		病
40	林 裁鳳	忠北 清州 南二 外川	端島	1945. 4. 12		埋没
41	金山 鉄鎬	全南 光山 林谷 林谷	端島	1945. 4. 24		肺浸潤
42	永田 月福	忠南 論山 恩津 南山	端島	1945. 6. 3		病
43	趙 再變	全南 順天 住岩 竹林	端島	1945. 7. 15		埋没窒息
44	長原 昌周	慶北 大邱 飛山	端島	1945. 8. 17		病・請負業
45	徐 己得	慶南 晋陽 晋城 大寺	端島	1945. 8. 24		戦災火傷
46	坂本 鳳日	慶南 晋陽 琴山 加芳	端島	1945. 8. 9		爆死
47	岩本 三龍	慶南 密陽 密陽 西	端島土木	1945. 8. 11		8・9発病
48	岩本 鐘烈	慶南 梁山 上北 石湫	端島	1945. 9. 1		病
49	金本 東植	全南 務安 智島 曾東	端島	1945. 10. 16		病
50	宮田 海應	忠北 清州 賢都 孝山	端島	1945. 11. 4	30	病

『戦時朝鮮人強制労働調査資料集 増補改訂版』から作成、  
端島での死亡者が主であり、高島での死者のほとんどが不明である。